

寿量品第十六、訓読と現代語訳

みょうほうれんげきょうによらいじゅりょうぼんだいじゅうろく
妙法蓮華經如来寿量品第十六

釈迦牟尼仏の真理と正しい教えを白蓮華に譬えたお経。第十六章。

釈迦牟尼仏の久遠の寿命を解き明かした章。

じ がとくぶつらい しきょうしよこつすう むりょうひやくせんまん おくさいあそうぎ
▶自我得仏来 所經諸劫数 無量百千万 億載阿僧祇

私(釈迦牟尼仏)が、仏として悟りを得てより経過した時間は、百千万億・載・阿僧祇という、計り知れないほどの時間(久遠)である。

この文章によりお釈迦様の本来の姿である。久遠の本仏が説かれている。

じょうせつぼうきょうけ むしゅおくしゅじょう りゅうにゅうおぶつどう にらいむりょうこう
▶常説法教化 無数億衆生 令入於仏道 爾来無量劫

私は常に法を説いて、億の無数倍という多くの衆生を教化して、仏道に入らせてきた。

そのようにしてこれまで、計り知れない程の時間が経過した。

い どしゅじょう こ ほうべんげんねはん にじつふめつど じょうじゅうしせつぼう
▶為度衆生故 方便現涅槃 而実不滅度 常住此説法

衆生を仏の世界へ導くために、教化の手段として入滅の姿を現したが、実際には入滅していない。

私は常にここに留まって法を説き続けているのである。

がじょうじゅうおし いしよじんづうりき りょうてんどうしゅじょう すいごんにふけん
▶我常住於此 以諸神通力 令顛倒衆生 雖近而不見

私は常にここに留まっているが、さまざまな神通力によって、煩惱などにより仏の真理に迷っている衆生には、近くにいても見ることが出来ないのである。

しゅうけんがめつど こうくようしゃり げんかいてれんぼ にしょうかつごうしん
▶衆見我滅度 広供養舍利 咸皆懷恋慕 而生渴仰心

多くの人々は私の入滅を見て、広い地域に於いて仏舍利(お釈迦様の遺骨)を供養し、あらゆる人々が皆、私を恋慕う心を懐いて、敬した うやまう心を起こす。

しゅじょうきしんぶく しちじきいにゅうなん いっしんよくけんぶつ ふじしゃくしんみょう
▶衆生既信伏 質直意柔軟 一心欲見仏 不自惜身命

じがぎゅうしゅうそう くしゅつりょうじゅせん
時我及衆僧 俱出靈鷲山

衆生はすでに私の導きを信じ、素直で柔軟な心をめぐらせ、一心に仏を見立てまつりたいと願って、自ら命をも惜しまないのである。

その時にこそ、私と仏道を求める者達は、ともに靈鷲山に姿を現すのである。

が じ ごしゅじょう じょうざい し ふめつ い ほうべんりき こ げんうめつふめつ よ こくうしゅじょう
▶我時語衆生 常在此不滅 以方便力故 現有滅不滅 余国有衆生

く ぎょうしんぎょうしゃ が ひ お ひちゅう いせつむじょうほう
恭敬信樂者 我復於彼中 為説無上法

私は、その時に衆生に語る。私は常にここにあって入滅することはない。教化の手段としての神通力により、入滅を現したり、また入滅しない姿を現すのである。すなわち、他の国土の衆生で、恭うやうやしく 敬い信じ願うものがいたならば、私は、その国土において、彼らにこの上ない法華經を説くのである。

によとうふもんし たんにがめつど がけんしよしゅじょう もつざいおくかい
▶汝等不聞此 但謂我滅度 我見諸衆生 没在於苦海

増上慢の者は、この私の言葉を聞かないで、ただ私が入滅したと思い込んでいる。私がさまざまな衆生を見ると、彼らは苦の海に没してしまっている。

こ ふ いげんしん りょうごしょうかつごう いん ごしんれんぼ ないしゅつ いせつぼう
▶故不為現身 令其生渴仰 因其心恋慕 乃出為説法

そのために、私は姿を現さない、そのことによって彼らに、あこがれ慕う心を起こさせるのである。そして、彼らの心に私のことを恋したい慕う心が生じるようになり、はじめて私は出現して法を説くのである。

じんづうりきによぜ おあそうぎこう じょうざいりょうじゅせん きゅうよしよじゅうしよ
▶神通力如是 於阿僧祇劫 常在靈鷲山 及余諸住处

私(釈尊)の神通力はこのとおりである。阿僧祇劫という無限の時間にわたって、私は常に靈鷲山や他のさまざまな所において法を説くのである。

しゅじょうけんこうじん たいかしよしょうじ が し ど あんのん てんにんじょうじゅうまん
▶衆生見劫尽 大火所焼時 我此土安穩 天人常充滿

衆生がこの世の終末を迎え、大火に世界が焼かれると見える時にも、私のこの国土は安穩であって、天の神々や人々が常に満ちあふれている。

おんりんしよどうかく しゅ じゅ ほう しょう ごん ほうじゅたけか しゅじょうしよゆうらく
▶園林諸堂閣 種種宝莊 嚴宝樹多華果 衆生所遊樂

実り豊かな園の樹林や多くの堂閣は、種種の宝によって 嚴かに飾られ、宝物で作られた樹には花が咲きほこり、果実が多く実っていて、衆生が遊樂する場所である。

しよてんきやくてんく じょうさしゅうぎかく う まんだらけ きんぶつきゅうだいしゅう
▶諸天撃天鼓 常作衆伎樂 雨曼陀羅華 散仏及大衆

天の神々は天上界の 鼓 を打ち、常に諸々の音楽を奏でて、曼陀羅華の花を降らして、
仏や大勢の会衆の上に花を散らしている。

がじょうどふき にしゅうけんしょうじん う ふしよくのう によぜしつじゅうまん
▶我浄土不毀 而衆見焼尽 憂怖諸苦惱 如是悉充滿

私の浄らかな仏国土は壊れることはない。しかし、人々はこの国土が大火により焼け尽くされて、
憂いや恐怖さまざまな苦惱などが充滿していると見ている。

ぜしよざいしゅじょう いかくごういんねん かあそうぎこう ふもんさんぼうみょう
▶是諸罪衆生 以悪業因縁 過阿僧祇劫 不聞三宝名

これら悪い業(因縁)の多い衆生は、悪業の報いにより、阿僧祇劫という長い時間が過ぎても、
仏・法・僧の三宝の名すら聞くことができない。

しょうしゅくどく にゅうわしちじきしゃ そくかいけんがしん ざいしにせっぽう
▶諸有修功德 柔和質直者 則皆見我身 在此而説法

色々な功德を積み、柔和で素直な人々は誰でもみな、私(釈尊)の身体がここに現されて法を説くのを見る。
功德を積み穏やかに正直に生きる人には、お釈迦様が正しい方向に導いて下さり、
善い結果を得ることができることを示している。

わくじ い ししゅう せつぶつじゅむりょう くないけんぶつしゃ いせつぶつなんち
▶或時為此衆 説仏寿無量 久乃見仏者 為説仏難値

ある時には、この人々のために、仏の寿命は計り知れないと説き、また長い間にわたり、仏を見ようとする
者に対しては、
仏に出遭うことは困難であると説くのである。

がちりきによぜ えこうしょうむりょう じゅみょうむしゅこう くしゅごうしよとく
▶我智力如是 慧光照無量 寿命無量劫 久修業所得

私(仏)の智慧の力は、このようであり、その智慧の光が照らすところは計り知れない。
また、私の寿命は無数の時間の長さである。
その寿命と智慧を得る為には、長い間修行して得たところなのである。

によどう う ちしゃ もっとししょうぎ とうだんりょうようじん ぶつごじつ ふ こ
▶汝等有智者 勿於此生疑 当断令永尽 仏語実不虛

あなた達のように智慧の有る者は、このことに疑念を生じてはならない。
この疑念を断じて永遠に無くすべきである。仏の言葉は真実であって偽りはない。

によいぜんほうべん いじおうしこゆえ じつぎいにごんし むのうせつこもう がやくい せ ぶ
▶如医善方便 為治狂子故 實在而言死 無能説虚妄 我亦為世父

く しょくげんしゃ
救諸苦患者

心の病を治す医師である父(仏)は、教化の手段として、心を惑わせてしまった子供(衆生)に良薬を飲ませるために、実際には生きているのに死んでしまったと言って良薬を飲ませ、あらゆる苦しみから救うのである。

いぼんぶてんどう じつぎいにごんめつ
▶為凡夫顛倒 實在而言滅

衆生は心が迷い苦しんでいるので、真実の覚り教えに導き続けているのだが、あえて入滅すると私は言うのである。

いじょうけんが こ にしょうきょうししん ほういつじゃくごよく だ おあくどうちゅう
▶以常見我故 而生憍恣心 放逸著五欲 墮於惡道中

常に私を見ているために反って、驕りの心が生じて勝手気ままに欲望にとらわれ、悪道に堕ち込んでしまうことになるのである。

がじょうちしゅじょう きょうどうふぎょうどう ずいおうしょかど いせつしゅじゅほう
▶我常知衆生 行道不行道 隨応所可度 為説種種法

私は常に衆生が仏の道を求め続けているかいないかを見極め、仏の道を求める者の能力に応じて教えを説き、仏の世界へ導く為に法を説くのである。

まいじさぜねん いがりょうしゅじょう とくにゆうむじょうどう そくじょうじゅぶっしん
▶每自作是念 以何令衆生 得入無上道 速成就仏身

私はいつでもこのように念じ続けている。どのような方法により衆生を教化して、覚りの境地に導き入れ、仏に成れるかと。